

「認定人間中心設計専門家」 2011年度資格認定に関する説明会

2011/12/8

NPO法人 人間中心設計推進機構
専門資格認定委員会

アジェンダ

- | | | |
|--------|-----------------------|----|
| Part 1 | 認定HCD専門家制度とは（早川） | 3 |
| Part 2 | 認定HCD専門家からの声（NEC河野さん） | 12 |
| Part 3 | 審査方法（書類審査の流れ）（和井田） | 13 |
| Part 4 | 認定専門家に求められるコンピタンス（安藤） | 18 |
| Part 5 | 申請書類の書き方（和井田） | 27 |
| Part 6 | まとめ | 34 |

Part 1

認定HCD専門家制度とは？

- 認定制度設立の趣旨、ねらい
- 誰のための制度か？
- 何を認定するのか？(コンピタンスマップ)
- どうやって審査するのか？
- 今年度のスケジュール

認定制度設立の趣旨

- (1) 人間中心設計(HCD)活動領域、役割の明確化
- (2) 人間中心設計(HCD)活動の活性化

正式名称

- 正式名称:「特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構認定 人間中心設計専門家」
- 略式名称:「HCD-Net認定 人間中心設計専門家」
- 英語正式名称:「Certified Human Centered Design Professional」
- 英語略式名称:「Certified HCD Professional」

認定組織

- HCD-Net 規格化/認定事業部にて認定制度確立・認定実施

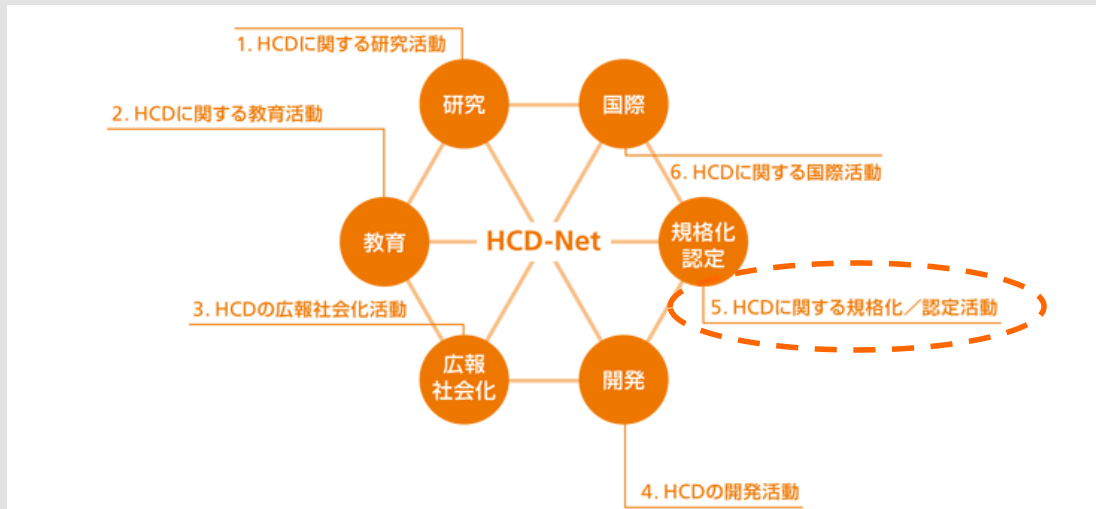


図1 HCD-Netの6つの活動領域

認定制度設立のねらい

- 商品やシステム開発における人間中心設計プロセスを実践できる専門家を認定する仕組みを確立する。
 - 使いにくい商品やシステムがまだまだたくさんあるため、実践には専門家が必要
 - 電子政府ユーザビリティガイドラインへの対応
- 専門家に必要とされる能力を明らかにする。
 - 能力を満たしている人を認定する
- 専門性を高めたい人の活動目標を明らかにする。
 - 何を学習/実践すれば良いのかを示す
- 専門家を活用したい人への啓蒙を実践する。
 - 誰に依頼すればよいのかを示す

誰のための制度か？ (for Whom?)

● 専門家Ⅰ … 実施中

- HCD 専門領域で後進の育成指導ができる人
- 実業界での実務経験原則5年以上(大学院含む)
- プロジェクトマネージャー、ウェブプロデューサー、コンサルタント、ユーザビリティ専門家、等

● 専門家Ⅱ … 準資格を検討中

- 要求仕様やUI仕様などの設計活動およびユーザー調査・テストなどの活動が自力でできる人
- 選任および兼務として HCD活動を遂行できる人
- プランナー、マーケティング・リサーチャー、システム・エンジニア、リクワイヤメント・エンジニア、Webディレクター、UIデザイナー、ユーザビリティ評価者、取扱説明制作者、等

● 専門家Ⅲ … 初級者向け 検討中

- HCD の基礎知識を有する人(例:発注担当者)

どうやって審査するのか？ (How?)

● 書類審査方式

- 実践プロジェクトの実績を書き込む
- 右の一覧を参照

● 審査基準

- HCD-Netが定めた一定の(実践)基準を満たしたことを認めるもの

審査書類の構成

- A 受験申込書
 - A-1 基本情報
 - A-2 学歴・職務経歴書
- B 実践活動記述書
 - B-1 プロジェクト経歴／業務履歴
 - B-2 プロジェクト記述書
 - B-3 コンピタンス記述書
- C 参考資料
 - C-1 教育履歴
 - C-2 論文・著作
 - C-3 作品、成果物

何を認定するのか？ (What?)

・実践プロジェクトにおけるコンピタンス(下図)の発揮を評価する。

A: ユーザビリティエンジニアリング能力		B: HCD適用・開発能力		C: プロジェクトマネジメント能力		K: 知識			L: テクニカルコミュニケーション能力
A1: 評価分析能力	A2: 設計デザイン能力	B1: 組織への導入推進能力	B2: 研究開発能力	C1: プロジェクト運営能力	C2: 組織管理能力	K1: プロセス・理念	K2: 開発部署共通	K3: 関連学問分野・手法	
11. リサーチデザイン能力	21. 要求仕様作成能力	31. HCD適用・導入設計力	41. 手法・方法論開発力	51. プロジェクトデザイン能力	61. 組織マネジメント能力	71. HCD・UCDに関する知識	81. ユーザーインターフェースに関する知識	91. 人間工学に関する知識	L1: 文書作成能力
12. インタビュー実施能力	22. 情報構造の設計能力	32. 教育プログラム開発力	42. 製品・事業の企画提案力	52. チーム運営能力	62. 教育能力		82. 製品・技術(ハード/ソフト)に関する知識	92. 認知心理学に関する知識	L2: コミュニケーション能力
13. 観察能力	23. デザイン・仕様提案能力			53. プロジェクト管理能力			83. 利用状況に関する知識	93. 各種調査評価手法に関する知識	L3: プレゼンテーション能力
14. ユーザビリティテスト実施能力	24. プロトタイプ作成能力						84. 設計・開発・デザインのプロセスに関する知識	94. 調査実務計画に関する知識	
15. インспекション評価実施能力							85. ユニバーサルデザインに関する知識	95. 量的分析手法に関する知識	
16. 情報構造の分析能力							86. 品質管理に関する知識	96. 質的分析手法に関する知識	
17. 分析考察能力							87. ソフトウェア工学に関する知識	97. マーケティングに関する知識	
18. 要求分析能力							88. テクニカルコミュニケーションに関する知識		
必須コンピタンス項目1: この中から7項目以上				必須コンピタンス項目2: この中から2項目以上		参考項目(加点項目)			

図2 人間中心設計専門家 コンピタンスマップ (2010年度版)

NPO法人 人間中心設計推進機構

今年度の実施スケジュール

- 2011年11月
 - 詳細告知
- 2011年12月20日
 - 応募書類受付開始→受験番号、受験料振込み先案内
 - 申請書類一式配布開始
- 2012年1月10日
 - 応募書類締め切り
- 2012年1月20日
 - 受験料振込み締め切り
- 2012年1月31日
 - 受験申請書類一式締め切り(当日消印有効)
- 2012年3月末日
 - 合格発表(Web上および本人への通知)
 - 有資格者登録手続き案内

昨年度(第二期)

- 第二期の審査結果
 - 計60人の人間中心設計専門家が認定された
 - 第一期と併せ現在178名の認定専門家

Part 2

認定HCD専門家から

- NEC マーケティング本部 デザイン戦略グループマネージャー
河野 泉 さん

Part 3

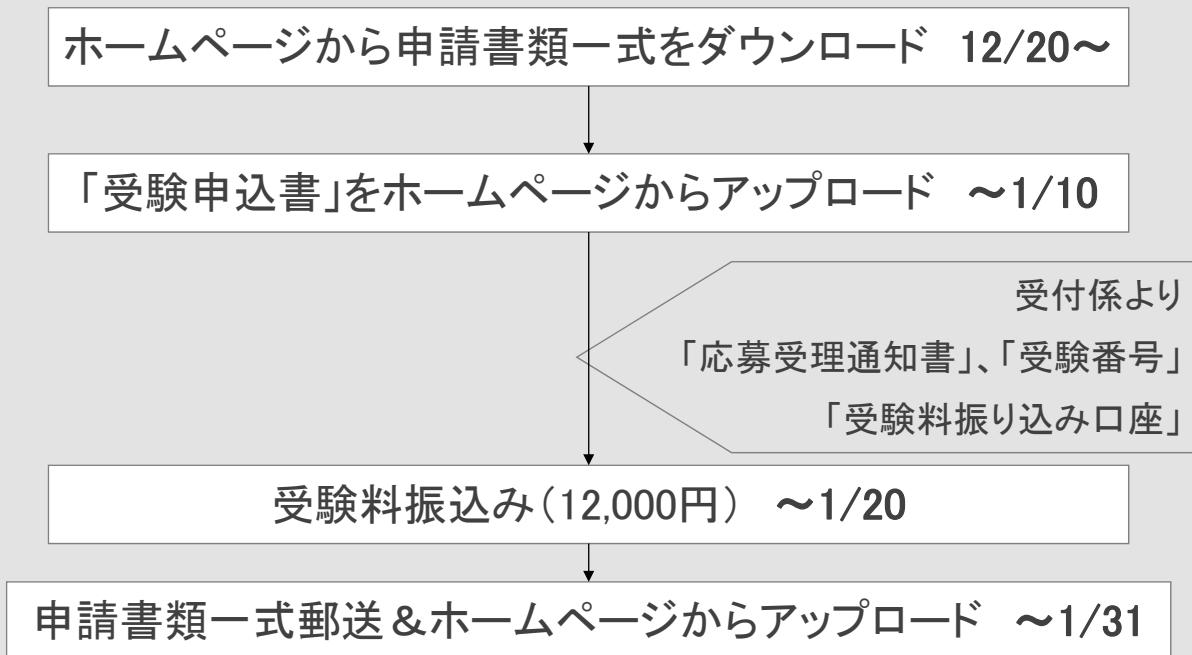
書類審査方式の流れ ※「応募要領」参照

- 応募資格
- 応募対応の流れ
- 資格審査の流れ
- 合格発表から登録・更新

応募資格

- 人間中心設計・ユーザビリティ関連従事者としての実務経験が、原則5年以上あること。
- 大学院在学中における実務活動、研究活動は実務経験年数として含むことができます。
- 人間中心設計専門家としてのコンピタンスを実証するための実践事例が3つ以上あること。
- 学歴については特に制限ありません。

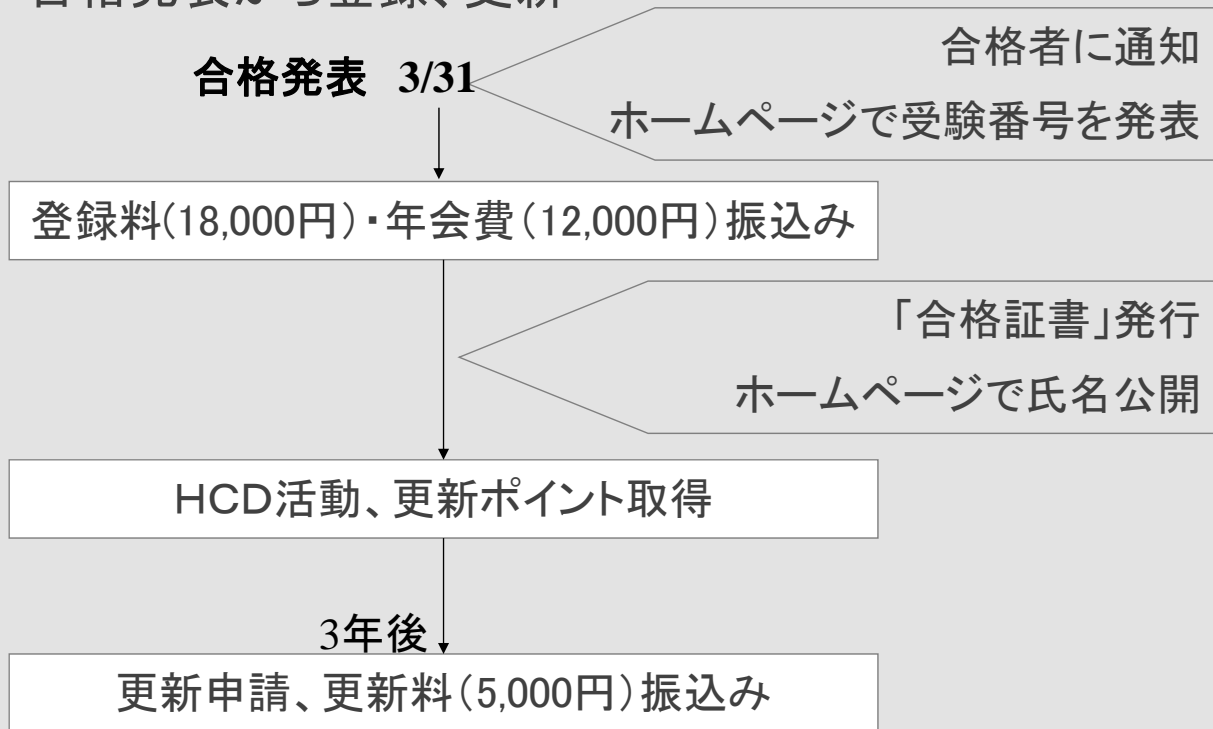
応募対応の流れ



資格審査の流れ

- 審査員は、匿名化された「実践活動記述書」の内容を採点します。
- 審査は、本認定制度を実施するHCD-Netが別途定めた資格を有する審査員2名以上で実施します。
- 担当する審査員の得点結果が大きく分かれた場合には、HCD-Netの定める判定委員会に於いて最終判定します。

合格発表から登録、更新



Part 4

認定専門家に求められるコンピタンスについて

2011年度 コンピタンスマップ

A: ユーザビリティ エンジニアリング能力		B: HCD適用・開発能力		C: プロジェクト マネジメント能力		K: 知識			L: テクニカルコ ミュニケーション 能力
A1: 評価分析 能力	A2: 設計 デザイン能力	B1: 組織への導 入推進能力	B2: 研究開発 能力	C1: プロジェクト 運営能力	C2: 組織管理 能力	K1: プロセス・ 理念	K2: 開発部署 共通	K3: 関連学問 分野・手法	
11. リサーチデザ イン能力	21. 要求仕様作成 能力	31. HCD適用・導入 設計力	41. 手法・方法論 開発力	51. プロジェクトデ ザイン能力	61. 組織マネジ メント能力	71. HCD・UCDIに 関する知識	81. ユーザーインタ フェースに関する 知識	91. 人間工学に 関する知識	L1: 文書作成能力
12. インタビュー実 施能力	22. 情報構造の設 計能力	32. 教育プログラ ム開発力	42. 製品・事業の 企画提案力	52. チーム運営能 力	62. 教育能力		82. 製品・技術 (ハード/ソフト)に 関する知識	92. 認知心理学に 関する知識	L2: コミュニケー ション能力
13. 観察能力	23. デザイン・仕様 提案能力			53. プロジェクト管 理能力			83. 利用状況に 関する知識	93. 各種調査評価 手法に関する知識	L3: プレゼンテー ション能力
14. ユーザビリティ テスト実施能力	24. プロトタイプ作 成能力						84. 設計・開発・デ ザインのプロセス に関する知識	94. 調査実務計画 に関する知識	
15. インスペクショ ン評価実施能力							85. ユニバーサル デザインに関する 知識	95. 量的分析手法 に関する知識	
16. 情報構造の分 析能力							86. 品質管理に 関する知識	96. 質的分析手法 に関する知識	
17. 分析考察能力							87. ソフトウェア工 学に関する知識	97. マーケティング に関する知識	
18. 要求分析能力							88. テクニカルコ ミュニケーションに 関する知識		
必須コンピタンス項目1: この中から7項目以上				必須コンピタンス項目2: この中から2項目以上		参考項目(加点項目)			

注意の必要なコンピタンス

- 11. リサーチデザイン能力
 - プロジェクトの目的に応じて、必要な調査・評価の手法を選び、調査企画を立案できる能力。
 - あくまで、個別プロジェクトの実施における計画の立案を想定している。
- 31. HCD適用・導入設計力
 - HCDプロセスの全部、あるいは一部の導入を計画立案する能力。
 - あくまで、専門家の立場・業務からのオフィシャルな導入であること。
 - 企業内でHCDやUX部署の立ち上げる等を含む。
 - 個人的、あるいはサークル的な取り組みだけでは、この能力には当たらない。勉強会などの組織内での取り組みは、「62. 教育能力」で記述できる。

注意の必要なコンピタンス

• 32. 教育プログラム開発力

- 組織等へのHCD導入の際に、人材育成プログラムを開発する能力。
- カリキュラム、教材の開発に関することであること。教育の社内制度だけでは十分でない。HCDの内容を理解したものであること。
- あくまで**専門家の立場・業務として**、アドバイザー／コンサルティングとして実施する際を想定している。

• 62. 教育能力

- プロジェクトをマネジメントする立場から、メンバーのHCDに関するコンピタンスを向上させる能力。
- プロジェクトメンバーに対して、OJTや研修、講義、対話などを通してスキル向上に寄与する。
- あくまで**組織のHCD業務を推進するプロジェクトメンバーとして**実施するものを想定している。

注意の必要なコンピタンス

• 41. 手法・方法論開発力

- HCDを実践するために必要となるプロセスや方法論、手技法を研究し、独自に整理・体系化したり、新たな手法を開発したりする能力。
- 個人的な技法の開発では十分でない。プロジェクトでの活用実績や方法論として外部化(社内レポートや論文等での発表)されていることが必要。

• 42. 製品・事業の企画提案力

- HCDプロセスの上流において、HCDの諸手法を用いて新製品やサービス、あるいは事業や研究テーマなどを企画提案する能力。
- HCDに関連する手技法を用いたアプローチで、企画立案がなされていることが望ましい。

注意の必要なコンピタンス

- L:テクニカルコミュニケーション能力
 - L1:文書作成能力
 - L2:コミュニケーション能力
 - L3:プレゼンテーション能力
- HCD専門家としての専門業務をより円滑かつ効果的に実施する基礎能力。
- ここでいう「テクニカルコミュニケーション」は、専門業務に関わるステークホルダー間のコミュニケーションに必要な能力を意味する。
- いわゆるテクニカルコミュニケーション技術を、専門業務で活用する能力ととらえてもらえればよい。

申請にむけて

- 申請される方は、必ずコンピタンスの説明を読んだ上で、「コンピタンス記述書」を作成するようにしてください。
- 審査員は、あくまで定義されたコンピタンスの意味に基づいて審査を行います。
- そのため、コンピタンスの内容を誤解して、申請書を作成していた場合には、評価はされませんのでご注意ください。
- 1つのコンピタンスについて、実務経験の能力を十分読み取れるよう、しっかり記述することにご留意ください。

コンピタンス採点のポイント 1

コンピタンス	定義	記入のポイント	↓ 記入欄	↓ 記入欄
A. ユーザビリティエンジニアリング能力			P1	P2
A1: 評価分析能力				
11. リサーチデザイン能力	<ul style="list-style-type: none"> 課題の本質が何かを適切に掴み、プロジェクトの目的に合わせて適切な調査、評価方法を設計する能力のこと。 調査、評価および分析手法（93～96参照）に関する知識を持っているだけでなく、何をどのように適用すべきかを判断、選択した上で、詳細な調査、評価計画を作成すること 	(1) 課題/目的を明示してください（課題を的確にやっていることがポイント）。		
		(2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。		
		(3) 申請者のアウトプット（計画書等の目次、内容、ページ数等）、又は成果/効果を示してください。		
		(4) その他アピールできることがあれば、ご記入ください。		

コンピタンスの発揮が実証されているか

コンピタンス採点のポイント 2

コンピタンス	定義	記入のポイント		
A. ユーザビリティエンジニアリング能力			P1	P2
A1: 評価分析能力				
11. リサーチデザイン能力	<ul style="list-style-type: none"> 課題の本質が何かを適切に掴み、プロジェクトの目的に合わせて適切な調査、評価方法を設計する能力のこと。 調査、評価および分析手法（93～96参照）に関する知識を持っているだけでなく、何をどのように適用すべきかを判断、選択した上で、詳細な調査、評価計画を作成することが期待される。 	(1) 課題/目的を明示してください（課題を的確にやっていることがポイント）。		
		(2) 何故、その方法を選択し、どのように企画・設計したか、工夫したかを明示してください。		
		(3) 申請者のアウトプット（計画書等の目次、内容、ページ数等）、又は成果/効果を示してください。		
		(4) その他アピールできることがあれば、ご記入ください。		

課題をどのように把握しているか

どのような工夫で解決したか

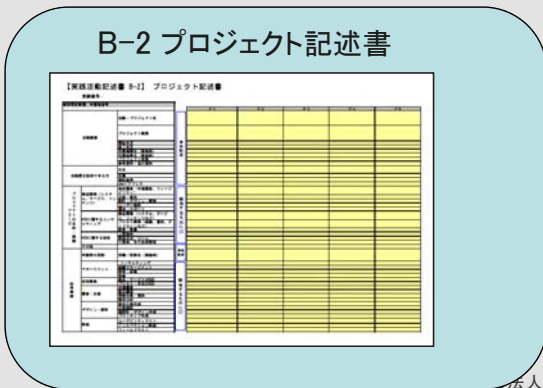
申請者自身が主体的に活動したか

コンピタンス実証の根拠が読み取れるか

コンピタンス採点のポイント 3

B-3 コンピタンス記述書

プロジェクト記述書や、プロジェクトごとのコンピタンスの記述を見て信憑性を判断



【実践活動記述書 B-3】 コンピタンス記述書

コンピタンスは各プロジェクトの得点のうち、一番高い得点を採用

プロジェクトの選び方

- コンピタンスを幅広く含むようにプロジェクトを選ぶ
 - 1つのプロジェクトで全コンピタンスをカバーする必要はない
- なるべく公開の制約が少ないプロジェクトを選ぶ
 - 記述が具体的なほうが審査員が実証を判断しやすい
- 業務上の守秘義務に配慮する
 - 対象システムやクライアントなどに言及できない場合は、利用したHCDの技術・知識、プロジェクトマネジメント方法などに焦点を当てて記述する

合否判定

- 審査員の採点した「B-3 コンピタンス記述書」を基に次のように行われます
 - 1. 必須項目の数が足りているか
 - ◆A、Bのコンピタンスのうち、得点のある項目が**7項目以上**
 - ◆Cのコンピタンスのうち、得点のある項目が**2項目以上**
 - 2. 総合得点が一定レベルに達しているか
- 受験者あたり審査員2名以上で採点しますが、判定結果が分かれた場合には、HCD-Netの定める委員会に於いて最終判定します。

Part 7

まとめ

- まとめ
- Q&A

まとめ

- 人間中心設計(HCD)活動に関する専門家として長年業務を実践し、ユーザビリティに関する品質向上と技術の普及に貢献している専門家を認定します。
- 人間中心設計専門家コンピタンスマップ(2010年版)に基づいて審査します。
- 提出された書類だけでコンピタンスの発揮を判断します。

ご自身の活動を
コンピタンスの視点で捉え直して
実証が伝わるように記述してください。

お問い合わせ先

- ご不明点があれば、下記までお問い合わせ下さい。
 - 人間中心設計推進機構 認定 人間中心設計(HCD)専門家 受験係
 - 住所: 〒150-0043
 - 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂1012号室
- 申請書受付／問い合わせ専用Email: nintei@hcdnet.org

※電話でのお問合せには対応できません

Q&A

[メモ]